

第33回在京
白聖会総会

在京白聖会報

第12号

平成14年3月30日

発行

在京白聖会

〒101-0025 東京都千代田区
神田佐久間町1-11
産報佐久間ビル
産報出版(株)内
TEL&FAX (03) 3254-9301

5月11日●、アルカディア市ヶ谷で「在京白聖祭」！

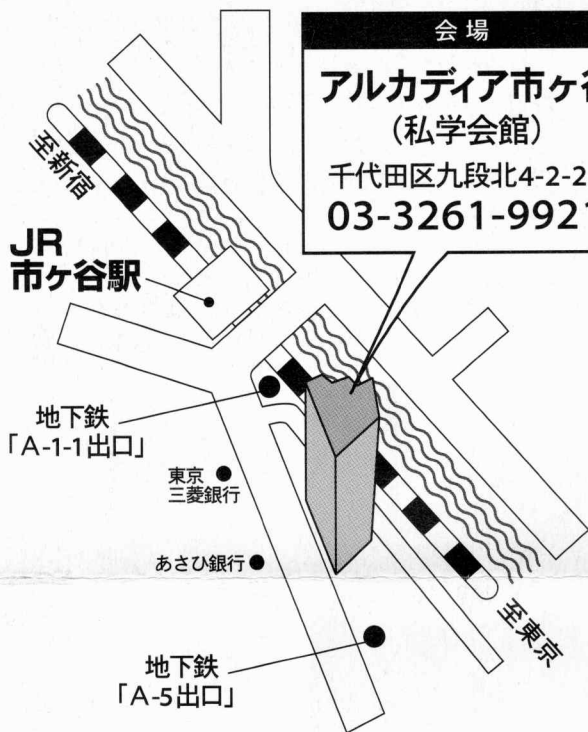
午後4時より「講演会」、午後5時30分より「総会・演奏会・懇親会」

ご案内

日時…5月11日(土) 午後4時
場所…アルカディア市ヶ谷(私学会館)
会費…一〇,〇〇〇円(年会費二,〇〇〇円を含む)
学生・院生 三,〇〇〇円(同右)

会場

アルカディア市ヶ谷
(私学会館)
千代田区九段北4-2-25
03-3261-9921



講師プロフィール



岩手の人材と食材を語る第一人者

太田愛人さん(盛中・昭和20年卒業)

1956年、東京神学大学大学院を修了した後、長野県大町市や横浜市の教会で牧師に従事。牧師を務めるかたわら、日本エッセイストクラブの理事やフェリス女学院の評議員として活躍。また、岩手の食材の紹介(「辺境の食卓」)や石川啄木・野村胡堂など「白聖人脈」をめぐる幅広い執筆活動を行っている。

恒例の在京白聖会の総会もいよいよ間近に迫りました。本年の総会は、幹事年次(昭和45年卒)のたつての希望により土曜日開催ということで、5月11日に開催します。従来の5月13日を原則とした平日開催を変更し、東京近郊に勤務の方や家庭の主婦層もより多く参加いただけるよう土曜日の開催とさせていただきます。

場所は、JR中央線の市ヶ谷駅前の「アルカディア市ヶ谷」(私学会館)地図参照で行います。本年の総会は、「在京白聖祭」と銘打ち、脈々と流れる「白聖文化」の伝統を確かめ、未来に羽ばたく若手文化人の活躍を紹介する企画を盛り込みました。この「在京白聖祭」は二部構成とし、第一部は講演会を4時から始めます。第二部は総会と

演奏会出演者プロフィール

米谷毅彦さん(S55年卒)

東京芸術大学大学院修了。94年から98年、コンスタンツァ国立歌劇場で第一バリトンの契約をし、ヨーロッパ各地で演奏活動を行った。97年にウィーン国際音楽コンクール声楽部門で第2位、ベレヌー協会特別賞を受賞した。この3月に、オペラ「無口な女」を主演。



森知英さん(S63年卒)

盛一在学中、全日本学生音楽コンクール第3位。東京芸術大学大学院修了。89年、第8回ベートーヴェン国際ピアノコンクール第4位。95年、第13回ショパン国際ピアノコンクールに日本代表としてデビュープロマを得る。99年より「ベートーヴェン・ピアノリサイタル全曲演奏会(全9回)」をスタートし、このほど6回目をクリアー。



お願い

総会欠席の方は、同封の振替用紙で会費二,〇〇〇円を振込み願います。

(在京白聖四五会)

土曜日の開催ですので、この機会に二次会として各年次の同期会をセットして、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。出欠は同封のハガキでご連絡ください。

演奏会、懇親会を5時30分より行います。講演会は、多彩な活動をされている太田愛人氏(盛中20年卒)による「野村胡堂をめぐる白聖友情史」をお願いしております。また、演奏会は第一線で活躍されているオペラ歌手の米谷毅彦氏(一高55年卒)とピアノリストの森知英さん(一高63年卒)のご出演を予定しております。



修学旅行のバスは行く

盛岡一高昭和41年卒業の同期会「よい会」は、昨年6月9日、10日、東京に集い、旧交を大いに温めた。参加者は45名にのぼり、半数以上が盛岡や全国各

35年目の修学旅行

前回11号の“掲示板から”でちらっと紹介しましたが、41会（よいかい=41年卒）が実施した「35年目の修学旅行」の詳細をお伝えします。

41年卒のHP（41会、セタ会）のアドレス
 (41会) www.ictnet.ne.jp/~yoshiabe/index.html
 (セタ会) www.incept.co.jp/tanabata/



本郷「鳳明館」前で記念撮影

地あるいは遠くアメリカから駆け付けた在京以外の者たちだったが、われわれの時代には修学旅行というものがなかったの、いわばこれが35年目の修学旅行となった。

当日は、まず、東京駅正午に集合、貸し切りバスで都内周辺の観光を行った。車中から談笑の輪が広がり、海ほたるで昼食をいただき、お台場のフジテレビを見学するなど完全にお上りさんの修学旅行気分。

夕刻、宿泊所の本郷「鳳明館」帰着、バス旅行には参加しなかった者も含めて、玄関前で記念撮影。

この旅館は明治時代から修学

旅行用の宿泊所として使われてきたところで、東京都の歴史的建造物にも指定されている古色蒼然たる雰囲気、いよいよ修学旅行気分を盛り上げて楽しい。入浴後、宴会となって、語り合うほどにふるさとの訛り強くなり、最高潮となったところで、中締めは校歌・応援歌を蜜唱、障子を震わして女中さんを驚かした。

会場を移して二次会となったが、これがエンドレスの飲み放題。明け方まで飲んでいるやつもいて、飲み放題契約は完全に



再会を祝い、健康を祈念して乾杯

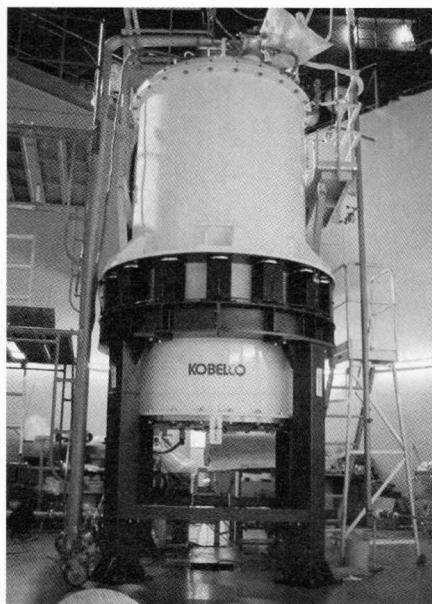
旅館側の負けとなり、翌朝の旅館女将の渋い顔が印象的だった。(41会・馬場信)

※本当に楽しかった様子が伝わってきて、うらやましい限りです。ただし、白聖会様御一行飲み放題パックお断りの悪しき前例を作らないよう、くれぐれもお願ひ申し上げます。

(編集部)



海ほたるで



(写真・上) 高さが5.3mと
ばかでない世界最高磁場マグ
ネットの冷却装置



(写真・左) 愛称HIGEchanと
ヒゲがトレードマーク
の佐藤明男さん

世界最高920MHzの高分解能NMRマグネット —21.6Tの世界最高磁場達成に成功—

独立行政法人 物質・材料研究機構
材料研究所 材料基盤研究センター

強磁場研究グループ第5サブグループ主任研究員 佐藤明男 さん(昭和42年卒)

白聖の
日本一
世界一

佐藤明男さん(S42年卒)は物質・材料研究機構 材料研究所 材料基盤研究センター(旧・金属材料技術研究所)で大型マグネットの開発を担当しています。NMR(核磁気共鳴)スペクトロメータは、発生する磁場の増加とともに測定感度と分解能が飛躍的に増加することから、ゲノムの解析や蛋白質の構造解析などの装置として期待され、サイエンス誌で国際マラソンにたとえられるほど激し

い開発競争が世界各国で繰り広げられています。同センターは、昨年の試験で21.6T(テスラ)というNMRとしては、とうより永久電流モードとして世界最高の磁場を世界に先駆けて達成。超伝導という最先端分野において世界最高のマグネット製造技術の開発に成功したことは、日本の先端技術のレベルの高さを世界に示す久々の明るいニュースでした。佐藤明男さんはこのマグネットのチームリーダーとして冷却装置の超流動ヘリウム冷却部分の設計を担当。NMR建屋も昨年完成、今年に入って装置の設置も終え冷却が始まっており、来年度には理研に貸し出されて世界最先端の蛋白質の基本構造解析が始まる予定です。世界中が注目する最強の磁石は、今後、ゲノムの解析やタンパク質の構造の解明にも大きく貢献することになります。

掲示板から

今年の年頭は、正月に岩手でも放映された浅田次郎原作「壬生義士伝」の話題で持ちきりでした。そんな話題を含め、あれこれ拾ってみました。

「在京白聖会ホームページ」

○朝日の論壇リードする白聖同窓生(投稿者・馬場 02年2月19日)

このところ朝日新聞の論壇を白聖同窓生がリードしている。

2月15日付に及川昭伍氏(S25卒、経済企画協会会長、在京白聖会会長)の「長寿社会 日本型ワークシェア構築」が載り、きょう19日付には内宮博文氏(S41卒、東京大学教授)の「ODA削減 世界の食糧生産向上に支障」が掲載されている。いずれもオピニオン面の「私の視点」欄に掲載された投稿論文だが、このところ立て続けに白聖同窓生が朝日の論壇をリードしたかつこうとなっている。

(以下略)

○田鶴子さん賢治を語る(投稿者・及川 02年3月12日)

昭和39年卒の野口田鶴子さんが宮澤賢治を朗読する会が開かれます。野口さんは、オペラの勉強でイタリア留学中に詩の朗読に開眼し、帰国後、賢治を語り続けています。

4月13日(土) 14時開演 地下鉄広尾駅5分 広尾商店街 祥雲寺山門内 東江寺本堂にて 会費 2000円 問い合わせ 0453032561 野口

「七夕会(41年卒)ホームページ」

○「壬生義士伝」最高! (投稿者・さきみ 02年2月24日)

正月日本へ帰ったときに、渡辺謙のファンだったのでVに録画してアメリカへ持って帰りました。ずっと忙しかったので昨夜やっと見る機会があり朝まで見てしまったのですが、とても感動しました!(中略) 歴史モノは大好きですが、いつも新撰組は血生臭いのでパスしていました。しかし歴史的にあまり知られていない吉村貫一郎という義士をメインにした話の展開がとても面白かったです。アメリカ人や他の外国人にもこういうスピリッツが判るので、是非こういう日本人の話を全世界で紹介したいと思っています。

○壬生義士伝・私のHPより引用します(投稿者・若尾優子 02年1月16日)

この正月、壬生義士伝「新鮮組でいちばん強かった男」を、テレビで見ても多いのでは? 久しぶりにたいへん面白い時代劇を見ました。

このテレビを見ながら、南部弁というのは懐かしく美しい言葉だなあと感心しました。根っからの盛岡人である祖母がよく使

っていた言葉でした。

後日談ですが、あの吉村貫一郎の子・貫一郎が農学博士となり、東京帝国大学を退官して、ふるさと盛岡の高等農林(現岩手大学農学部)に赴くくだり、あの農業資料館で、撮影したいとの申し出が館長である夫のところにありました。重要文化財であるために内部の撮影はできないといったんは断ったそうですが、いろいろあってOKを出したそうです。ところがいざとなったら、経費の面か何かで撮影には来なかったそうです。夫はただ振り回されたとぼやいておりました。(注「抜粋です」)

「百聖90(50年卒)ホームページ」

○今年の盛岡は(投稿者・村井 02年1月31日)

異常に冬の寒い1月だと思っています。日曜日の夕方から降りだした雪は夜半に強くなり、地震まで引き起こしながら、公称「60cm」の積雪とか。10時ごろにうちの居候犬の散歩に出たら、最初、はしゃいで駆け出したロン君は、20メートルほど走って立ち往生。水原! 俺達が生きてきた44年10カ月の中で、一番の降雪だったと思うよ、記憶に無いもん、一晩でこんなになったのは。(注「抜粋です」)

※東京は確か風花のような雪が一回きり。桜も早や散り異常な暖冬でしたが、故郷岩手は大雪もあったようです。(編集部)

白聖活躍人 INTERVIEW

●開国以来の大イベント

今年はいよいよサッカーの「ワールドカップ」が日本で開催されますね。

吉田 これは想像以上にすごいことなんです。前回のフランス大会では各地の予選を勝ち抜いた32チームが64試合行い、277万人動員しました。今年は日韓で320万人動員するだろうといわれています。さらに、

サッカーのワールドカップは、

世界で延べ四〇〇億人が観る大イベント。
日本を世界に発信する絶好のチャンスです。

吉田憲司さん（S50年卒・日立柏レイソル企画広報部長）



ワールドカップは単なるスポーツの祭典ではありません。国と国の威信を賭けた戦いです。日本が決勝リーグに進んだら、大きな自信を取り戻せるでしょうね。

昭和50年卒。毎日新聞東京本社運動部記者から、Jリーグ発足に伴い(株)日立製作所に移籍。出向のかたちで(株)日立柏レイソルに。6月のW杯では札幌会場のプレスオフィサーを務める。

2002年版名簿を刊行

2002年版の在京白聖会名簿を刊行します。この名簿は、会費納入者には無料で配付します。(総会参加者には、当日配付予定です)

からトータルで1万人以上が来日します。ワールドカップは、単なるスポーツの祭典ではありません。

——ありとあらゆる国に向けて日本から情報が発信されるわけですね？

吉田 そうです。ワールドカップは日本人が外国の文化に触れ、海外に日本を紹介する絶好のチャンスでもあるのです。どのように日本から情報を発信するかが、非常に大切です。

私は、ワールドカップは明治維新、開国と同じくらいの意味があると思っています。日本は今、自信をなくし新しい方向性を模索していますが、本当にいいタイミングだったと思います。ワールドカップが日本人を元気づけ、日本再生の起爆剤になってくれればと思っています。

吉田さんはワールドカップではどんな役割を？

吉田 世界中からやってくるメディアのコントロールです。一つの試合をすべてのメディアが取材できるわけではありません。

そこで、各試合会場のメディアセンターはFIFA(国際サッカー連盟)のプレスオフィサーとベニユー(開催地)プレスオフィサーの2人が責任者となって、関係者や通訳のボランティアなど100人以上のスタッフの協力を得て各国のメディアのコントロールに当たります。私は、札幌会場(札幌ドーム)のプレスオフィサーを務めます。6月7日には大注目、因縁の対決となるイングランド対アルゼンチン戦があります。

●プロスポーツ選手の魅力

——運動部記者時代から一貫してスポーツ畑の仕事をしていきますが、どんなところにスポーツの魅力を感じていますか？

吉田 身近にスポーツ選手と接していて感じることは、その感性の高さです。生きる知恵と言いかえてもいいですが、一流スポーツ選手のそれは、学校教育で得られるどんな能力にも勝ります。なぜか。それは小学校から中学、高校と一つのスポーツを続けることは、並み大抵のことではないからです。先輩後輩の関係もあれば不合理、不条理なこともいっぱいある。生き抜いてプロになれるのは、ほんの一握り。東大に合格するよりも難しいのです。そんな世界で身に付けた精神力の強さ、我慢や

思いやりといった生きる知恵には、年齢に関係なく人間の奥深さを感じさせられます。選手は普段の姿とピッチに立ったときは別人です。そこには現代の若者たちにアピールし、若者の心を救える何かがあります。

——発足して10年、Jリーグは日本のスポーツ環境をどのように変えましたか？

吉田 ある種の革命をもたらしたと思います。相撲やプロ野球のような数文化から、選手と観客、市民が同化し、一体となって戦い感動を共有する市民スポーツの楽しみ方を定着させました。自治体などもスポーツを通じて市民と心を一つにする手がかかり得ることができたと思います。その延長にあるのがワールドカップです。今度、世界中が熱狂に包まれる渦のどまん中で、世界の人々と一緒に感動を共有できます。市民レベルでのグローバル化への第一歩がこのワールドカップだと私は思っています。

編集後記

総会開催の頃は、日本中が「ワールドカップ」モードになっていることは間違いありません。負けじと、幹事団は総会の準備に早や臨戦モード。5月はW興奮モードで盛会必至。白聖の蛮声を市ヶ谷に轟かせましょう！